

平成 29 年度第 2 回健康うらやす 21（第 2 次）推進検討委員会 議事録

1. 開催日時 平成 30 年 3 月 28 日（水） 午後 1 時 15 分から午後 2 時 30 分

2. 開催場所 健康センター 第 1 会議室

3. 出席者

東邦大学看護学部 : 福島富士子

市民公募 : 大北悦子 関根妙子 涌本敦子 和田玲子

浦安市歯科医師会 : 内田治雄

浦安市薬剤師会 : 畑中範子

浦安市健康推進員 : 國師光枝

浦安市母子保健推進員 : 森川君江

浦安市自治会連合会 : 佐久間清

浦安市婦人の会連合会 : 上田泰子

浦安市民生委員児童委員協議会 : 大村洋子

浦安市老人クラブ連合会 : 宮坂照代

(事務局)

浦安市健康増進課 : 町山課長、小澤課長補佐、梅澤係長、斎川係長

成人保健係 : 金子、橋本、稲葉、徳留、星野、三島、高橋、進藤、鈴木

保健指導係 : 岩佐、飯盛

4. 議題

(1) 平成 29 年度の取り組みについて

(2) 平成 30 年度の取り組みについて

(3) その他

5. 議事の概要

5. 議事の概要

(1) 平成 29 年度の取り組みについて

事務局より説明し、委員より特に質問なし

(2) 平成 30 年度の取り組みについて

事務局より説明。平成 30 年度は、計画の中間評価及び見直しの年になり、今回新たに食育推進計画と自殺対策計画も包含させた計画になることから、健康うらやす 21（第 2 次）推進検討委員会設置要綱の改正を議案にあげ、承認を得た。

(3) その他

これまでの取り組みや今後の取り組みについて、各委員より意見をいただいた。

6. 会議経過

- (1) 委員長あいさつ
- (2) 平成 29 年度の取り組みについて
- (3) 平成 30 年度の取り組みについて

(事務局) <別添資料参照>

事務局より次第 1 今年度の取り組みをご報告します。

まずは、栄養・食事に関する取り組みです。今年度も包括連携協定を結んでいるイオングループとの食育イベントを開催しました。コラボしたのはダイエー浦安駅前店です。スーパーという場所は、健康に関心のある人も無い人も生活する上で誰もが利用する場所です。そのような場所でイベントおこなうメリットは、スーパーで買い物をした「ついで」に健康情報が入ってきて、その「ついで」の機会を利用して、食習慣を見直すきっかけになるかもしれないという事です。今回は、体験コーナーとして骨の健康度測定と、貧血の簡易測定としてヘモグロビン濃度のチェックを行いました。また、試食コーナーでは健康推進員さんが、骨粗しょう症の調理実習で使ったレシピで試食を作りまして、来店者の方々に食べて頂くとともにそのレシピを配布しました。配布資料にあるものが、当日、配布したものです。こちらは、測定コーナーでエレベーターを上がってすぐのところで行いました。こちらは、試食コーナーで干しエビを使った「中華風おこわ」の試食です。干しエビは、骨量を増やすのに良いとされるカルシウム含有量が多く、小さじ 1 杯で一日のカルシウム摂取量の約 4 割が摂取できる優れものとされています。また、作るのが面倒そうなおこわも炊飯器で簡単に作れるレシピを、試食と共に紹介することができました。

その他にも各種の健診を紹介する展示コーナーも設けました。今回のイベントは、「食に関心を持つ人を増やす」という事をテーマに、行いました。日頃、私達がおこなう、各種の健康教室に参加される方は、60 代以上の高齢期の方が多く、なかなか、働く世代の方に健康情報を伝えることができません。しかし、今回は 50 歳未満のかたが 7 割以上という結果で、日頃お伝えしにくい世代の方々に、健康情報を発信する事ができました。

さらに、体験ブースで計測をした方に、計測の実施前後でアンケートをとって見たところ、計測前では「普段から、健康には気を使っていない」と答えていた方が、計測した後では、「健康への意識が変わった」と答えた方が 7 割もいました。このことから考えますと、「自分の体を測定する」という実体験が、健康への意識に変化を与えている事が伺えました。そして、このような体験型の健康普及活動は、地域の色々な場で出張可能です。自治会や支部社協、PTA など特に健康情報を伝えづらい 20 代～50 代の、働く世代の方に、実体験を通して健康への意識を少しでも持っていただけるような場がありましたら、委員の皆様から、ご提案いただきたいと思えます。

また、今回のイベントでは、212 名の方に、食生活に関するアンケートにご協力いただきましたので、一部浦安市の食に関する現状をご報告いたします。まず、「食育に関心

があるか、という質問では、関心のある方が約8割となっており、国や県の7割台に比べると関心が高いことがうかがえます。また、「食育に関する情報をどのように入手しているか、という問いでは、30～40代の子育て世代では、学校からの配布物やインターネットで受け取る情報が多く、50～60代は、行政からの情報や、新聞・テレビ、また10～20代では、雑誌からの入手が多いということが伺えましたので、今後の健康情報の発信では、各世代のチャンネルを意識して、発信する必要があると感じています。さらに朝食の摂取については、アンケート回答者212名の約8割が、週6～7日食べていると回答していますが、残りの2割は、食事を抜いている現状が伺えます。また、年代別に見ますと20代では約3割の方が、週4～5日またはそれ以下と回答しており、食事を抜いている現状が伺えます。また、朝食を食べない理由は、「時間がないから」と回答している方が多くなっています。また、「1日の食事で、2回以上、主食・主菜・副菜をそろえて食べる日が、週に何日あるか」という質問もしていますが、週に6～7日と回答したのは約4割となっており、国や県の5割を下回っている状況です。主食・主菜・副菜を摂ることは、体に重要な栄養素をバランスよく摂るとともに、肥満の予防となり、循環器疾患や糖尿病の予防にもつながります。次年度策定予定の「浦安市の食育推進計画」の中で、このような課題を整理し、対策を検討していきたいと思えます。

次に、健康管理・予防に関する取り組みです。今年度、浦安市国民健康保険の第2期データヘルス計画を策定しておりますが、市民の方への公表はこれからになりますので、委員会終了後、資料につきましては回収させていただきます。このデータヘルス計画につきましては、医療保険者が保有する健診データや医療レセプトデータを活用して、効果的で効率的な保健事業の実施を図り、被保険者の健康の保持増進を図るための計画とされています。まずは、健診データから見えた現状としまして、特定健診については、受診率が低下傾向にあります。さらに、年代別にみると40～50歳代の受診率が低く、男性も女性も同様となっています。また、健診においてメタボリックシンドロームに該当した方には、生活習慣の改善と病気の発症を予防するために、保健師や管理栄養士による特定保健指導の利用券をお送りしますが、利用率が悪い現状です。こちらも、健診受診率同様に40～50代の利用率が低く、男性も女性についても同様となっています。さらに、医療費分析から見ますと、生活習慣病にかかる医療費は、健診未受診の方が健診受診者に比べて、4倍医療費がかかっている現状です。また、医療費全体のうち、生活習慣病の医療費は21.4%を占めており、その内訳は高血圧、腎不全、糖尿病の順に高くなっています。疾病別医療費で見ましても、上位5疾病のトップは「がん」ですが、次いで、「高血圧性疾患」、「腎不全」、「その他の心疾患」、「糖尿病」と、生活習慣病が続いています。また、患者数で見ますと、腎不全は他の疾病に比べて少人数ながら、患者一人当たりの医療費が高額になっていることがわかります。さらに、腎不全が末期状態になりますと、人工透析を導入しますが、その約7割が、生活習慣病が原因で透析導入を余儀なくされ、その98%は、糖尿病性腎症によるものでした。このようなデータ分析から、第2期の国民健康保険データへ

ルス計画においては、40～50歳代の健診受診率や特定保健指導の利用率を上げて、早期発見・早期治療をおこなうとともに、特に、糖尿病性腎症の重症化予防に重点を置き、新規の人工透析導入を食い止めることを目標に進めていく予定です。また、糖尿病性腎症重症化予防については、地域のかかりつけ医と、糖尿病や腎臓の専門医、また、行政の管理栄養士や保健師による保健指導などが、ネットワークを作って対応することが示されておりまして、昨年12月に、千葉県もプログラムを策定しております。今後、浦安市におきましても、このネットワークをどのように構築できるか、医師会の先生方ともご相談しながら、進めてまいりたいと思います。

最後に、妊産婦・乳幼児への取り組みをご紹介します。昨年10月より、妊娠期からの切れ目のない支援の1つとして産婦健診を開始しました。具体的には、市内の4つの医療機関において、「お母さんの気持ち質問票」というアンケートを実施し、産後うつ傾向や育児不安等の心配のある産婦さんについて、医療機関から市の母子保健担当保健師に直接連絡が入る仕組みになりました。このことから、その後の産後ケア事業や新生児訪問、また産前・産後サポート事業の支援につなげています。この取り組みの広がりをきっかけに、医療機関や各事業の保健師や助産師・子育てケアマネジャーによる「顔の見えるネットワークづくり」として、「母子保健事業連絡会」を開催しました。また、産婦健診が開始したことで、産婦さんのメンタルヘルスの対応も増えていることから、この会の中で、担当者の質の向上を目的に、精神科医師の研修会をおこなったり、お互いの事業の情報交換や、課題の共有が進んで来ています。

健やか親子21第2次が平成27年から始まっており、切れ目のない妊産婦・乳幼児への保健対策が基盤課題として掲げられています。市内の4つの医療機関で「お母さんの気持ち質問票」のアンケートを実施し、産後うつ傾向や育児不安等の心配のある産婦について、医療機関から市の母子保健担当保健師に直接連絡が入る仕組みになっていることから、医療機関の助産師や看護師と連絡を多く取るようになっており、かおの見える関係づくりが進んで来ています。健診の状況から産後ケア事業や新生児訪問、産前・産後サポート事業の支援に保健師がつなげています。

昨年度までは年1回の産後ケアを委託している助産師や医療機関スタッフと母子保健の保健師が集まり、「産後ケア事業者連絡会」を開催していましたが、今年度は産前・産後サポーターや新生児訪問の助産師も参加して「母子保健事業連絡会」を開催し、お互いの事業の情報交換や課題の共有、また、産婦健診が開始したことで産婦のメンタルヘルスの対応も増えていることから、担当者の質の向上のため、精神科医師の研修会も行いました。

地域の母子や家族が様々な支援につながるだけでなく、連絡会を開催することで地域の関係機関のネットワークが構築され、担当者間のかおの見える関係づくりに役立っています。

今年度の取組のいくつかをご紹介しますが、健康うらやすの推進イメージに照らしてみますと、食育イベントは、企業とのコラボレーションで、健康情報を、スーパーという

生活の場から発信した取り組み、また、糖尿病性腎症重症化予防のための、かかりつけ医・専門医・行政によりネットワーク構築の検討や、妊産婦・乳幼児への切れ目のない支援として立ち上がった母子保健事業連絡会などは、どちらも、リスクの高い市民を支援者同士のネットワークであり、ハイリスクアプローチとポピュレーションアプローチの融合という視点があります。さらに、そこでつながった支援者たちが「顔の見える関係」になるということは、支援者間のソーシャルキャピタルが醸成されることにつながり、その結果は、市民の健康増進に効果的に働く、と認識しています。

事務局からは以上です。

(委員長)

ありがとうございました。腎臓病の問題は全国どこでも大きな課題で私が調べていったら昔から不老長寿の薬を探し求める中国の仙人たちは腎臓のための薬を探して一旦病気になると腎臓は治すことができないので、予防というのは大事だとつくづく感じました。私たちはなるほどとわかりますが、もっと具体的に一般の方々にもわかりやすい形で提示していくことの必要性を感じました。もちろん事務局の方も努力はしていると思いますが、みなさんの中でこんな風にしたら伝わっていくのではないかと意見を出していただけたいと思います。母子保健のこともポピュレーションアプローチやハイリスクアプローチって一体何だろうと思う方もいらっしゃると思うので、大きな問題を抱えている人たちと一般的な人たちで問題を抱えている人たちほどハイリスクで、そこに対するかかわり方がハイリスクアプローチで、すべての方を対象にすることがポピュレーションアプローチだということが一般の人達にはなじみがないことだと思います。より若い人たちに推進していくにはわかりやすい言葉にしていくことが大事ではと感じながら聞かせてもらいました。何かご質問などございますか。よろしいでしょうか。では、次に平成30年度の取り組みについてお願いします。

(事務局)

2、健康うらやす21（第2次）の中間評価および見直しについてです。

健康うらやす21（第2次）は、平成26年度から35年度までの10か年計画となっています。そして、平成30年度は、中間見直しの年度となります。現在、健康うらやす21（第2次）は、母子保健計画である「健やか親子21（第2次）」を包含した計画となっており、健康分野別の取り組みとライフステージ別の取り組みで構成されていますが、30年度の中間見直しの中で、健康分野別の取り組みの中でも、栄養・食事および歯・口腔の健康の中に食育推進計画の内容を入れ、また、こころの健康の中に自殺対策計画の内容を包含させていく予定としています。また、新たな計画の内容も包含させることから、健康うらやす21（第2次）推進検討委員会設置要綱を改正し、第2条第3項に、計画の評価・見直しに関することについても所掌事務に入れ、ご意見をいただく場とさせていただきます。

たいと思います。また、それに伴い30年度は3回程度の委員会を予定しております。これらのご承認いただけますようお願い致します。

(委員長)

ありがとうございます。そうしましたらこのままその他についてもお願いします。

(事務局)

そこで、健康うらやす21（第2次）推進検討委員会設置要綱の改正をいたしまして、第2条健康うらやす21（第2次）計画の中間評価および見直しに関すること、をいれ2つの計画を包含させた形での健康うらやす21の見直しについてのご意見を伺いたしたいと思います。それに伴い委員会を今年度は3回予定しておりますのでよろしくお願いいたします。

(委員長)

それでは健康うらやす21（第2次）検診検討委員会設置要綱の改正について賛成の方は挙手をお願いします。はい、では承認いたしまして進めていきたいと思います。

(委員)

来年度の組織改正のお話をしたいと思います。昨年市長が変わりまして、組織の見直しがされます。健康増進課につきましても今まで健康福祉部に属してましたが、健康福祉部が福祉部になりまして、こども部が健康こども部になります。健康増進課は市民の方にはそう変わりませんが、健康福祉部から健康こども部になります。それに伴いまして健康増進課も2課に分かれまして、30年度から健康増進課と母子保健課に分かれます。健康増進課が主に大人の方の保健をやりまして、母子保健課が妊娠から出産の切れ目のない支援、乳幼児健診とか妊産婦の健診とか産後ケアなどを中心に行っていきます。この委員会自体は広く市民全体の話なので事務は健康増進課で行っていくと思います。健康うらやす21は幅広いので健康増進課1課ではやっていけないので、母子保健課と連携をとりながら市の他の課にも協力いただきながら進めていきたいと思います。

今この委員会の所掌事務の改正がございましたが、健康うらやす21の中間評価とか見直しは皆さんのご協力がないとできませんのでよろしくお願い致します。

私は4月1日から国保年金課に異動になりまして課長が醍醐というものになりますので事務は引き継ぎますがよろしくお願い致します。

(委員長)

よろしいでしょうか。せっかくなので皆さん一言でいいのでご意見をお願いします。

(委員)

前回もこの委員を務めさせていただいています。31年度ですか、健康うらやす21（第2次）の取り組みの中で、食育促進、歯と口腔の健康ということで口腔ケアに力を入れておりまして、確定ではございませんが浦安市でも口腔がん健診等できればと動いていると

ころでございます。2年また委員を務めさせていただきますのでよろしくお願いいたします。

(委員)

いつもこちらの方出させていただいて健康について考えさせられます。今回の食育の話聞いて若い人への情報提供を強化していかないといけないと感じました。薬剤師会の方では受動喫煙防止を強化しているところでございます。情報提供の方ですがよろしくお願いいたします。

(委員)

資料をお持ちしましたが、話を聞くと若い人たちの話ですよね。糖尿病の話が出ましたが、糖尿病はとても怖くて老人会でも話は出ますが、糖尿病になると二次感染、三次感染と薬が効かなくなって危ないよとよく言われております。資料の中で老人クラブの人数が毎年毎年増えております。頑張っており、こちらの会も続けさせていただきますので、よろしくお願いいたします。

(委員)

ここの健康うらやすの会議で齋川さんの的確な説明を受けてこのように浦安の健康が守られているとよく勉強させられた一年でした。民生員児童委員ですが、高齢者には手厚いですが委員で児童のことが意識の上で手薄になっているので主任民生委員として私自身は児童のことを中心にやってきていますが、子供のことを民生委員に伝えていかないといけないかなと思います。浦安市は子育ての施策が充実していて普段「集いの広場」という子育て支援の場にいますが、転出入する人がこんな浦安っていろんな施策がある。こんなところはあまりないよと口々に言っています。ここ何年かで様変わりしているのは保育園に行く方がすごく多くなっていて、浦安では保育園がどんどんできていて働くお母さんが増えているということで、子供の育ちを市で見ると様変わりしていると感じます。また勉強させていただきたいと思います。ありがとうございました。

(委員)

婦人の会では段々高齢化になってきていますけれども、会員としては30代から80, 90代と幅広い年齢層ですが、今年は若い方に声をかけて増やしていきたいと思っていて9月に食品表示セミナーというのを開催しまして、何人でもいいので来ていただいて食品などに興味を持ってもらって講演会を開こうと考えております。婦人の会といたしましては、結核予防会に毎年協力させていただいていますが、全国の結核予防会というのは2月に治療研修会というのが秋篠宮妃殿下が総裁でご臨席いただいて講演会をしております。その中でいろんなグッズを買って寄付をするという形、全国の婦人会としてカンボジアに視察に行っていますが、おとし大塚会長がカンボジアに行ってきて実情を見てきて日本は本当に恵まれていると感じたところで、カンボジアでは裕福の方でしか診療が受けられないし、水もペットボトルとかちゃんとしたのでないと飲まないほうがいいという感じでレントゲンとか行きたくても道路事情でいけないとかで診療を受けられないとかカンボジアだけでしたが、アジアの方でも結核患者が減らないと日本でもなくならないので

はないかということで私どもの方では結核予防会の方に協力しています。日本でもあまり話題にはなりません、隠れた結核患者の方がいらっしゃると思いますので、健康面ではそういうところにも関心を持って活動をしていきたいと思っています。

(委員)

皆さんの意見ごもっともだと思いますが、まずは健康が第一ですね。ここの名前も健康増進課となっておりますので、各県で健康についてのいろんな研究があると思います。まずはそういうものを参考にしてわかりやすいものから取り入れたほうがいいと思います。年配者はまず文字を読まない。手引きとかで見ればいいけど私が感心したのは長野県の減塩コンクール。あそこは昔から味噌汁が濃い目で病気が多かったのですが、コンクールのなものをやって徐々に良くなってきたと。そういったみんなが参加できるものを行った方が手取り早いのではないかと。成功すれば次はこのステップと考えていただければ、我々も情報があれば皆さんにお伝えしますが、役所も他県の情報を入れて各市民に公開するようになればありがたいと思うんですが、よろしくをお願いします。

(委員)

母子保健推進員としては生まれてから三か月のお子さんのお宅を連絡せずに訪問します。私は富岡地区を訪問していますが、一回で出会えることがほとんどなくてそれでもあきらめずに2回3回と訪問して会えるようにしています。その中でこのお母さん心配だとか、この赤ちゃん心配だなどということを保健師さんにあげることが私たちの役目なので、頑張ってお母さんに会えるよう訪問していきます。よろしくをお願いします。

(委員)

私たちは市民の健康づくりの応援を、市の職員に相談したりサポートしていただきながらやっているボランティアの団体です。今年アプローチしたい年齢に対してそれに沿った活動をしていくことを目標としました。そして、30代から50代をアプローチしたい年代として、先ほどの中華風炊き込みのレシピが配られました、この調理実習を行いました。参加者がキャンセル待ちをするくらい出ました。それを踏まえて30年度はより参加しやすいように、そして参加者が増えるように今まで健康センターでやっていたものを7か所ある公民館に出向いて活動する計画を進めています。ただ、斎川係長がおっしゃったように一番接点を持ちにくい年代でもありますが、いろいろ工夫して保育付やレシピの時間を短くするなど調理方法を工夫してやっていきたいと思っています。あと、出前講座として子どもたちへ玉ねぎ坊やとうんち君で食育劇を通して食と運動の大切さを伝えていきます。今年小学校でヤクルトが講座を行っているんですが、船橋、市川、浦安市内の集荷所を見学して伝え方の勉強をしてまいりました。こちら30年度は翌日入学を控えたお子様に4月9日からの出前講座を皮切りに約14件の依頼がございますので、次回につながるようバリエーションを増やしていく計画です。先ほどの調理実習の時に浦安市は他の県内地域に比べて女性の喫煙率が高いというデータがありますので、この時に全く無関係ではないので、禁煙や受動喫煙に対する防止のチラシの配布ができればいいなと思います。予定としては

以上です。

(委員)

前回に引き続き浦安の健康というのはいろんな方に支えられていると感じさせていただきました。私自身はボランティアの活動ですが、浦安子育てミーティングというのを中央公民館でやらせていただいている、私自身中学生と小学生の親で働くママでしたが、一人目の産前休暇で友達も妊婦さんも知り合いもないし、働いている先輩ママもない環境でして、忙しいのであまり孤独を感じない環境ではあるんですが、そういった環境の中で働いてきたという経験がございます。浦安子育てミーティングの中では行政でもたくさん場を作っていただいているんですが、なかなか妊娠期から産後まで続けていける場がないのと、働くママが参加できる土曜日や日曜日の場がないなら自分たちで作ろうということで2014年からパパママセミナーを毎月一回ずつ開催しております。そういった経験がありますので、何か皆さんとつながったりこちらの会でも経験が生かしてお互いをつなげるような役割になれたらいいかなと感じました。健康の情報ということでお話が出ていましたが、最近の若い人たちはネットや雑誌などで情報をたくさん持っています。本を読むのも好きですし、勉強熱心な方が多いです。かえって情報がいっぱいでも何もしない状況の方が多いいかなと思いますので情報の出し方もなかなか難しいなと思いました。これからもよろしくお願いします。

(委員)

いろいろお話を伺って浦安市はイオンで推進なさったり、母子にも優しくったり素晴らしい市だなと思いました。一つだけ教育関係といいますか、長い間小中学生や高校生も含めて子供に接することが多かったので、たとえば健康うらやす21の基本理念を見ていて子供が「健幸」ってこう書くのかなって思ったらとか、スローガンを見たときにカタカナが多いのではないのでしょうか。コラボレーションは何となくわかりますが、ソーシャルキャピタルの活用で下書いてあることがパッと浮かぶのかなとか考えましたので、小池知事が横文字が多いと揶揄までいかないけどテレビで拝見しまして正直多いいかなと思いました。浦安は働くお母さんとか弱い立場の人にやさしい都市で素晴らしいなと思っております。そのような感想です。

(委員)

みんなが思っても言わないことを言います。母の治療について私の意見を言います。金属アレルギーの人が虫歯を金歯で治療して蓄膿症になったり、口内炎になったりします。そのため口の中が汚れています。ほかの病気になったりもします。今の日本の金歯は戦後の厳しい状況でできたといわれています。ヨーロッパやいくつかの国では金歯を使ってはいけない国もあります。しかし、健康保険がきくのはプラスチックあるいは前歯だけの保険の適応になっています。歯ぎしりする人は奥歯に何トンという力が寝ている間に加わってしまいます。そのためプラスチックでは無理です。なのでオールセラミックというのを健康保険でつけてもらえばいいと思います。そしたら国の予算も減ると思います。歯は家が

建てられるくらいお金がかかるといわれています。しかしそれはおかしい常識です。

(委員)

まずは去年の健康フェアの中止はとても残念でした。続いて 2 点だけ申し上げたいと思います。3 月 15 日発行の広報で、4 月 1 日から胃カメラ導入とありました。また、健康診断のお手紙も今日届きました。胃カメラは 2 年に 1 回という記事を見ました。市の検診で早期発見ができた人がいたんです。早期発見できて病院にも行っていますが、その方の心のケアをするカウンセラーとサポートがいたらなと私たち友人でいろんなアドバイスはしましたが、専門的なアドバイスができる人がいればその方は気持ちが安らいだのではないかと、先ほどの心の健康にもつながるのではないかと。病気になって発見ができる検診はいいが、その後のケアをするカウンセリングも考えていただいたほうがいいのではないかと思います。もう一点はこちらの健康センターの階段ですが、いつも見ていいなと思います。ほかの公共施設にもあと何段上がったら何キロカロリーってそういう表示があると、もっと上りたい、何キロ歩きたいという気持ちになるので、ほかの公共施設にもあったらいいなと思いました。以上です。

(委員長)

皆さんありがとうございました。関根委員の歯のことについては何か内田先生のほうからコメント等ございましたらお願いします。

(委員)

一般的な事ではしかお答えできませんが、金属アレルギーは出る人も出ない人もいて、一概に金属アレルギーがでると精査しないと答えできないのですが、国の方針も保険診療の改定がありまして、比較的金属は使わないでという方向になっています。少しは前進あるのではないかと思います。あとは各論に関することに関しては健康保険に関しては皆さんにということが前提として設定となっていますので、個人個人は該当する次第となりますのでその方を見て判断するのが基本的な保険診療とさせていただければいいと思います。

(委員長)

ありがとうございました。皆さんのお話を聞いて浦安市は全国の中でも名前が上がっているところだと思います。それは健康について、出産についていろんな形でモデルになっていることは全国の自治体を見ていてがんばっている市だなということを感じております。一人ずつの健康についてもそうですが、今日来ていただいた関係団体や市民活動も盛んだなということと、今日も市民の方 4 名来ていただいてご自身の意見を語られるというのはほかの自治体ではないので浦安市が健康日本 21 のモデルとしてのうらやす 21 になっているのかなと感じました。国がやっている健康日本 21 は一人ずつが健康になっていくには町全体が支えていくことが大事だと言っております。たとえば外で食事する人が高齢者が多ければ食事の場所が意識をもって献立等考えていただけるような街になっていくことも大事でしょうし、行政だけではなく民間も含めているところで一緒に活動していくこ

とがこれからの方向性だと思っておりますし、一人ずつのご意見も反映させて長いこと浦安市に関わらせていただいていたのですが、よく事務局の方もやってらっしゃるなと思います。ご意見、先ほどいただいたカタカナもアンケートしていただけたらと思います。今日は短い時間だったのでお一人おひとりのご意見はもっとたくさんあったと思いますが、これからの会議の中で自主的に発言をしていただけていい形で浦安市を盛り上げていってほしいと思います。

(委員)

先ほど大北委員からご発言ありましたががん治療、心のケアというお話がありましたが、来年度健康増進課のほうでがん対策の推進条例制定を9月目標にしまして考えておりました、その中で国や県も条例を作っていますがそういった枠組みの中で浦安市としても何かできないかということで考えております。議会などでも心のケアやカウンセラーのところは議員の方からも質問されておまして、先進自治体といいますかいくつか取り組んでいるところもございます。市としてもそういったことの必要性を感じておまして、ただ場所や人の確保などの問題もございますので、そういったことも踏まえまして今後検討させていただきたいと思っております。

(委員長)

それでは本日の会議は終了とさせていただきますと思います。

(事務局)

本日はありがとうございました。また、委員の皆さんのご意見もありがとうございました。今回の委員会の内容を踏まえまして次年度をこういった形で計画の推進を図っていきたいと思います。次回は平成30年度第1回は4月ということでまた決まり次第ご通知させていただきますので、どうぞよろしく願いいたします。本日は誠にありがとうございました。